

ヨコエビ



△
新種と思われるイソヨコエビの仲間

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

27

大和 茂之

白浜水族館で水槽の隅をよく見ると、横向きになって動く体長数センチほどのエビのような生き物が

カニと同様に甲殻類に属するが、さらに端脚類に分類される。端脚類は世界中の深海から淡水まで、また陸上の森林床などの多様な環境に生息している。その種類は世界中で8000種、日本でも3000種以上が知ら

でも、あらゆる種類のヨコエビ類が水族館に生息できるわけではない。限られた種類だけが継続的に見られる。イソ

のは、正確な同定がされていないからだ。例えば、イソヨコエビの仲間は、日本からは1種類だけが報告されており、その基になった標本は白浜から採集されている。しかし、白浜水族館で見つかる種類はそれと一致しない。おそらく新種と思われる。ところが、新種である

新種と言うためには…

いる。無脊椎(せきついでい)動物用に細かく区切られたつり水槽で見つけやすいだろう。この動物がヨコエビである。

白浜水族館では意識して展示しているわけではないが、水族館全体から見つかる。おそらく、海藻や他の生物に付いて運び込まれたものが、広がったのだろう。以前に書いたフナムシのように、

ヨコエビの仲間、モクスヨコエビの仲間、メリタヨコエビの仲間などである。これらはいずれも雑食性で、展示生物の餌の残りや有機物の破片を食べている。また、水族館の浄化槽や排水口のフィルターなどからも大量に見つかることがある。

「仲間」と書いていると言つたためには、世界中でこれまで報告されている100種近くの種類と比較、照合しなければならぬ。しかも、この仲間は、成長段階で特徴が大きく変化して、比較するのが非常に難しい。新種であると思いつつも手をつけかねている。

「仲間」と書いている

(京都大学助教)